

平成30年度事業報告書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

本校は、全国でも珍しい組合立の学校として、奈良県内の若年者を中心に、「県内で育て、県内で働く」ための職業（美容）教育に努めております。しかし、1973年を最後に出生数の減少が続き、「学校」における安定神話は崩れ、大学や短大、専門学校などの経営方針が著しく変化しています。さらに、若者の大都市志向は根強く、本校の立地状況から鑑みても、次世代を担う人材育成の基盤整備と強固な教育体制の構築が急務となっています。

昨年は、「働き方改革」の言葉通り、昼間課程生には、職業観授業を強化し、卒業後の離職率の改善と将来を見据えた進路指導を実施しました。通信課程生には、国家試験取得のプロセスを指導する上で、組合員サロンとの連携を図った安心して通学が出来るシステムを構築しました。また、本校における教職員の労働条件にも柔軟な勤務体制を進め、個々の生活状況に応じた働き方を推奨し、最大のパフォーマンスとサービスが提供できるよう努めました。

また、教育の成果としては、昼間課程に偏らず通信課程（サロン従事者・一般・高等学校連携事業）を含む、国家試験合格のマニュアルを安定的かつ高度なシステムとして構築し、国家試験に対する指導指針が確立された年となりました。このシステムにより、指導者や生徒の価値観、課程（昼間課程・通信課程）による修得時数、教育環境に左右されず、高い合格率が継続的に維持できるようになりました。

さらに、技術大会では、「技能五輪全国大会」において2007年の初出場以来、12年連続上位入賞を果すほか、各種大会で高い評価を頂けるレベルを維持しております。

今後、「高等教育の無償化」「外国人技能実習制度」など、専門学校における経営は極めて厳しい状況が続きます。昼間課程においては、多種多様な営業戦略を実施し、学校訪問による進路指導部との情報共有、SNSを利用した告知、マスコミや媒体を使用した広報活動、地域連携によるボランティアを通じた印象戦略など、様々な試みを実施しておりますが、組合立としての役割を果たすための人材確保に、大きな課題が残る結果となりました。しかしながら、通信課程においては、本来のサロン従事者に対する教育に加え、高等学校との連携事業、まつ毛エクステを背景とした美容関連従事者など、様々な年齢・職業層に対応した募集活動が安定的に行われ、昨年3月には55名の卒業生が巣立って行きました。

全国に二百六十校余りある美容養成施設のうち十数校が「組合立」として、伝統を重んじ高度な技能教育を推進しています。本校においても、従来昼間課程を柱とした経営に留まらず「組合立」の利点を最大限に発揮できるよう最善を尽くします。その上で、地域の美容業を担う美容人の育成、そして52年続く「櫃美」の愛称と伝統を守れるよう、今後とも組合員の皆様方のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。